

2-1 シンセサイザーの 代表的な音色とアレンジの構造

シンセサイザーの代表的な音色

- ① シンセベース
- ② シンセリード
- ③ プラック
- ④ パッド
- ⑤ シーケンシャル

① シンセベース

シンセアレンジにおいてベースパートを担当する音色。バンド編成でのエレキベース同様、最低音で全体のアレンジを支える役割を担っている。エレキベースのように積極的に動きを出していくアレンジ方法もあるが、最近のトレンドとしてはルートをリズムカルに刻むだけのシンプルなアレンジが多い。

音色的には、フィルターエンベロープのきいた減衰系の音色が一般的だが、シンセリードのような持続音系のパワフルなものや、ワブルベースのようなトリッキーな音色まで実に多様なサウンドが存在する。

② シンセリード

主にメロディ、またはそれに準ずる旋律的な要素を担当する音色。リードギターやリードボーカルといった、主役をとる楽器と同じ意味合い。広義ではシンセブラスなどもリード系の一種としてカテゴライズすることもある。

【シンセリードの音色的特徴】

- サスティンレベルの高い、持続音系エンベロープ
- モノフォニック

③ プラック

主に和音の演奏を担当する音色。プラック(Pluck)という単語には「弦楽器をかき鳴らす」という意味があり、ギターやハープなどのような撥弦楽器に似た音色をもつのが特徴。広義ではピアノやキーボードなどの鍵盤楽器などもプラックの一種として解釈することができる。

【プラックの音色的特徴】

- 減衰系エンベロープ
- ポリフォニック

④ パッド

サウンドの広がり感や空気感を付与するために用いられる、柔らかく広大な音色。パッド(Pad)という単語には「詰め物をする」という意味があり、シンセアレンジにおいては、サウンドの空間や帯域のスキマを埋めるような役割を持つ。広義ではシンセストリングスもこのカテゴリに分類される。音色的には、以下のような特徴を持つ。

【パッドの音色的特徴】

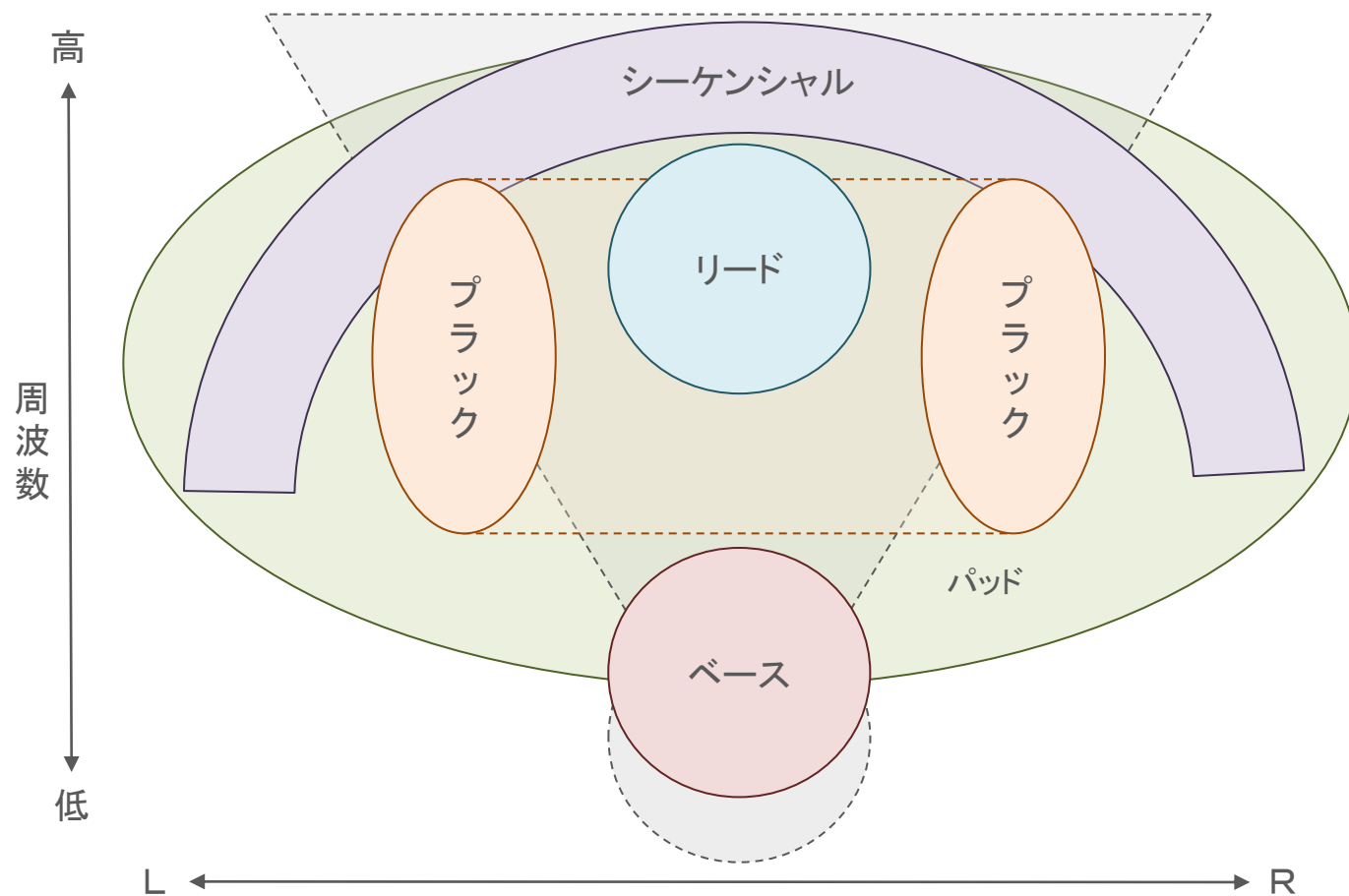
- ふんわりとした立ち上がり & 持続系のエンベロープ
- ポリフォニック

⑤ シーケンシャル

その名のとおりシーケンス(予めプログラムされたパターン)を演奏する音色のこと。アルペジエーターを使った自動演奏が一般的だが、昨今のシンセは非常に複雑なシーケンスを組むことができるようになっているため、単なるアルペジオはもちろん、リフやリズムループのようなさまざまな音色が存在する。

シーケンシャルの役割は「賑やかし」であり、ファッションでいうならばアクセサリーのようなもの。したがって必ずしも必要なパートではないものの、シーケンシャルが入ることで楽曲全体が華やかなサウンドになる。

シンセアレンジの構造



主要3パートの配置(ベース、リード、ブラック)

主要な役割を果たす3パートの配置は以下のとおり。

- ベース(ベース担当) = センター低域
- リード(メロディ担当) = センター中高域
- ブラック(コード担当) = 左右に広がり(ステレオ感)を持たせて中域

この3パートは、いわばシンセアレンジの根幹をなす部分であり、バンドサウンドにおける、ヴォーカル、ベース、ギターやキーボードと同じような構造と考えると問題ない。上記3点だけでアレンジが成立していないとスカスカのサウンドになってしまうため、念入りに作り込んでいこう。

オプションとなるパート(パッド、シーケンシャル)

パッドやシーケンシャルは、曲中必ず必要となるわけではない。とくにシーケンシャルは、前述の通り「賑やかし」としての役割を持つものであるため、その位置どりも慎重に決める必要がある。主要3パートの邪魔をしないよう、以下の考え方で配置していこう

- パッド = 全パート中最も奥まった場所。各パートの帯域の隙間を埋めるように。
- シーケンシャル = プラックやリードなど主要パートの邪魔にならない位置